

編集後記

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-02 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/39117

編 集 後 記

純文学なるものが高度に発達した世界はさして住み良いものではない。批評の時代は更に住みにくい。しかし我々はファシストではない。桃源境を現実に変現し楽園を地上に引きおろす意企を拒否する。“智慧は悲しみだ”とバイロンは云った。“だが悲しみは智慧だ”とキーツは云う。智慧の木の実を喰うた人間は、もはや幸福ではあり得ぬと歎くもよいが、ニーチェの跌は踏むまい。苦き果実より真理の泉は流れ出づる。文学研究は人間に取憑く悪霊に対するエスプリの戦に他ならない。薄明の都金沢の大気はデーモンに満ち満ちている。研究上好適な条件に恵まれている。

第5号は会員諸兄姉の熱意が実って大部のものとなった。ただ従来欠かさず掲載した研究室図書目録は紙数の関係上今回に限り割愛せざるを得なかった。各大学ライブラリーの連絡はアメリカでは完備しているようであるし、とりわけ貧しい我国に在ってはこの必要が痛感される。この試みは、ちびちびした分載で気はひけるが、日本に於ける英文科では金沢大学をもって嚆矢とするのではなからうか。最近同志社大学に於ても包括的なアメリカ文学書目録が刊行されたことは快事である。

積極的な“暇”を創り出す活動を期待して止まない。 (O. O.)